

Hirosaki
MOCA
Letter

vol.03

TAKE FREE

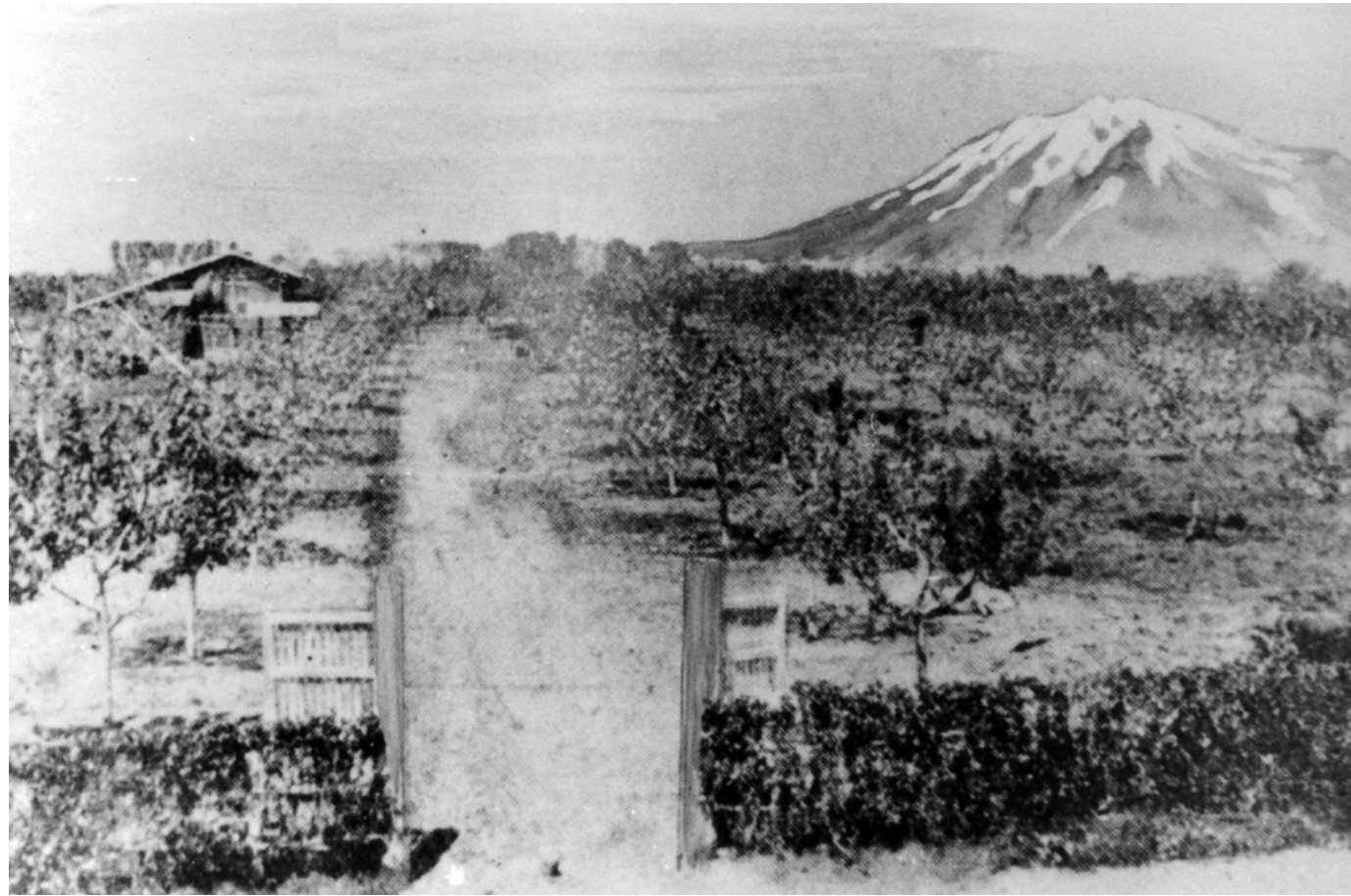
弘前 れんが倉庫 通信

弘前れんが倉庫美術館を
もっと楽しむフリーペーパー

特集：りんごと美術館

屋根裏にぼっかりと空いた暗闇の奥に、「ハト小屋」と呼ばれる小さな部屋がある。
いまはもう開くことのない窓が、午後の光を受けとめながら、
この場所の記憶をいまにとどめている。

杉の木立が風に揺れ、木々の間からりんごの甘い香りが匂い立つ。
そのとき人々は、平和を告げる鳥があの窓から飛び立つ影を見たのかもしれない。



煉瓦倉庫の歴史をたどってみると、 この場所とりんごとの関わりが深いことがわかります。

美術館が建つこの場所に、旧弘前藩士・楠美冬次郎がりんご園「不換園」を開いたのは明治13(1880)年のこと。りんご栽培は、廃藩置県後、旧士族への勧奨事業でした。明治40(1907)年から大正12(1923)年にかけて、福島藤助が醸造所を建てます。この建物が今に受け継がれている煉瓦倉庫です。昭和14(1939)年頃、福島醸造はりんご酒を製造する御幸商会の工場とし

て一時借用されます。戦時下の米不足で日本酒が制限され、補うためにりんご酒が製造されていました。昭和19(1944)年、吉井勇が福島醸造を引き継ぎ、日本酒「吉野桜」や焼酎を造ります。吉井は西欧でシードルの醸造法を視察、昭和29(1954)年、朝日麦酒(現アサヒビール)の出資で、朝日シードル株式会社弘前工場を創業します。昭和31

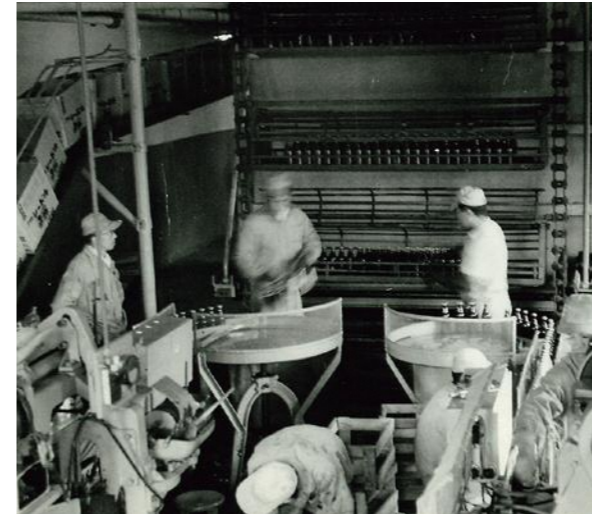
(1956)年発売の「アサヒシードル」は日本初の本格的なシードルとなりました。のちにニッカウキスキーが継承し、新工場に移転する昭和40(1965)年までこの場所で醸造されました。

時を経て、令和2(2020)年春からは、再びこの場所で、シードル醸造が行われています。

【写真上】楠美冬次郎のりんご園「不換園」。美術館が建つ場所は、かつてりんご畑が広がっていました。
写真提供：弘前市立弘前図書館

【写真下左】2階南側(現在のライブラリー付近)。出来上がったシードルを瓶詰めする作業が行われていました。
写真提供：ニッカウキスキー株式会社

【写真下右】1階の貯蔵室(現在の展示室)。シードルの貯蔵タンクが約100基、ずらりと並んでいました。現存する柱も写り込んでいます。
写真提供：ニッカウキスキー株式会社



【写真上】2階南側(現在のライブラリー付近)。瓶詰めしたシードルを殺菌するための機械が設置されていました。屋根を支える小屋組をみると、同じ場所であることがわかります。
写真提供：ニッカウキスキー株式会社

【写真左】1階西側(現在のエントランス)。シードルのラベルの貼付や検品、箱詰め作業が行われていました。
写真提供：ニッカウキスキー株式会社

りんごから生まれた作品

弘前れんが倉庫美術館では建築や地域に合わせた作品を収集しています。弘前のりんごとの出会いから生まれた2つのコレクション作品を紹介します。



撮影・ToLoLo Studio



撮影・ToLoLo Studio

ジャン＝ミシェル・オトニエル
《エデンの結び目》
2020年

フランスのアーティスト、ジャン＝ミシェル・オトニエルが2018年に弘前を訪れ、りんごの美しさに感銘を受けて制作した本作は、168個のビーズの連なりによって形作られた、大きな結び目の作品です。その中に見られる赤色のビーズは、まさに弘前のりんごから得たイメージが取り入れられています。美術館の煉瓦の空間のための長期展示作品として作られており、鏡面のガラスによって周囲を映し出すことで、空間に調和しながらも、煌びやかに存在感を放っています。

ケリス・ウィン・エヴァンス
《Drawing in Light (and Time) ...suspended》
2020年

イギリスのアーティスト、ケリス・ウィン・エヴァンスによる、ネオン管を組み合わせた高さ7メートルの大型の光の彫刻作品です。彼はリサーチで訪れた弘前で、ニュートンがりんごの落果から万有引力を発見するきっかけになったとされる品種「Flower of Kent」(ケントの花)の木を見つけたことから、万有引力や惑星の軌道などを作品の要素に取り入れて作品を制作しました。本作は、2021年度の展覧会「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」、 「りんご前線—Hirosaki Encounters」を通して、ご覧いただくことができます。

PICK UP! シードルってなに？

シードルは「りんご」だけで造った醸造酒です。青森県内の各メーカーは、りんごそのものを絞って発酵させているため、自然な甘みや酸味、旨みが生き生きとしています。シードルのタイプには発泡、無発泡などいくつか種類があります。世界的には発泡タイプが主流で、自然発泡と、あとから炭酸ガスを注入する方法があります。どちらが良いというのではなく、味わいや飲み口の違いとなるのでお好みで選んでみて



はいかがでしょう。アルコール度数は3～5度程度と低めのものが多く、食中酒にもおすすめ。ジャンルを問わず、特に日本のシードルならば和食との相性がぴったりです。ちなみに、アップルブランデーは、りんごを原料にした蒸留酒で製法としてはウイスキーや焼酎の仲間で、度数も40度程度と高めです。弘前れんが倉庫美術館に隣接するカフェ・ショップにはA-FACTORY弘前吉野町シードル工房が併設されています。店内では飲み比べセットが楽しめるほか、ショップでは青森県内各メーカーのシードルを取り揃えています。

写真/発売当時の「アサヒシードル」の瓶

PICK UP!
PEOPLE

美術館とまちをつなぐ
わたし・アート・まち



映画「イントレランス」の衝撃 そして揺るがぬ共感

洋菓子工房ノエル オーナーパティシエ 成田 勇さん

ノエルを開店して33年になります。「共感」のここを大切にしてお菓子づくりを続けてきました。「共感」は生活の豊かさにつながるキーワードだと思います。

長年の映画ファンです。開店してまもない1989年、映画好きの友人に誘われて、東京の武道館まで観に行った映画があります。1916年公開のアメリカ映画「イントレランス」です。新日本フィルハーモニー交響楽団の生演奏と共に再上映されました。

イントレランスは、4つの物語を並行させる構成や、クロスカッティングや移動撮影など当時としては画期的な技法が駆使された衝撃作でした。8時間ものフィルムとなり、セットも壮大で経費がかさんでしまい、興行としては失敗だったようです。

武道館での上映は、2時間半に編集したものです。正直、ストーリーは難しい印象でしたが、自分の中に強烈な記憶として刻まれています。第一次世界大戦が巻き起こる不安定な時代、監督がこれだけの大作を生み出したことに、強く共感するものがありました。当然のごとく、映画づくりには試行錯誤がつきものです。お菓子づくりもそう。試行錯誤のその先にある「共感」のために、これからお菓子を作りに努めたいと思います。(談)



【洋菓子工房ノエル】
津軽のりんご(ふじ)をたっぷり使ったアップルパイが人気。店主のやさしい気持ちがそのままケーキになっているようです。
弘前市品川町2-2
TEL.0172-35-7699
時間9:00-18:30
毎週火曜日定休



撮影・成田写真事務所

Exhibition information 展覧会情報

秋冬プログラム「りんご前線 — Hirosaki Encounters」

会期：2021年10月1日(金)～2022年1月30日(日)

弘前れんが倉庫美術館

【開館時間】9:00～17:00 ※但し、金曜日・土曜日に限りスタジオ、ライブラリーのみ21:00まで開館

【休館日】火曜日(祝日の場合は翌日に振替)、年末年始

〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1 [TEL] 0172-32-8950 [Mail] info@hirosaki-moca.jp

【駐車場】思いやり駐車場2台 ※お車で越しの際は近隣の有料駐車場をご利用ください

【表紙写真】撮影：畠山直哉

【編集協力】もの芽舎 [デザイン] デザイン工房エスパス [印刷] 凸版メディア株式会社

【編集・発行】弘前れんが倉庫美術館(指定管理者 運営業務担当 エヌ・アンド・エー株式会社) [発行日] 2021年11月1日

STAFF
VOICE

美術館のおしごとアレコレ
スタッフに聞きました!



弘前れんが倉庫美術館 Members #03

学芸チーム 宮本 ふみ

宮本ふみさんの担当は「ラーニング」。美術館におけるラーニングとは、教育普及活動のことを指します。具体的には校外学習の受け入れや、学校の先生のための鑑賞プログラムの企画、さらに弘前れんが倉庫美術館という場を通じて地域の創造的の魅力の再発見を目指すプロジェクト「弘前エクステンジ」の実働部隊としても活躍しています。

宮本さんはもともと美術に関心が高く、弘前大学・大学院在学中はビジュアルデザインのゼミに所属していました。また学生有志と弘南鉄道中央弘前駅構内に「ギャラリーまんなか」を創設し、展覧会やトークイベントを積極的に行ってきました。現在の職場にも開館前から期待を寄せており、就職が決まった時にはとても嬉しかったといいます。感受性豊かな宮本さんは、「鑑賞の仕方押し付けるのではなく鑑賞者それぞれの感じ方を大切に、それでもなお心に残るラーニングを志したい」と、仕事への思いを語っています。

聞き手・佐藤あい佳(タウン誌編集者) 撮影・成田写真事務所

Event report イベント報告

H-MOCAライブ Vol.3 トーク「本とお酒と街のこと」

実施日：2021年7月24日



まわりみち文庫の奈良匠さんとAND BOOKSの本村春介さんをお招きし、小さな本屋やブックバーを開いた理由、おすすめの本について語っていただきました。スタジオでは毎月イベントを開催しています。

ねぶた展示

実施日：2021年7月31日～8月8日



緑地で富田清水町会青年部ねぶた実行委員会によるねぶたの展示が行われました。大きな組ねぶたに子どもも大人も集まり、週末にはお囃子と“ヤーヤドー”のかけ声が響き渡っていました。

HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART